

## ダイバーシティ推進活動の紹介記事を連載します

ダイバーシティ委員会 委員長 中野 裕美

粉体工学会では、2015年度に、粉体工学・技術に関わるダイバーシティ社会形成における人材育成を目指してWGを立ち上げました。2016年度には、具体的な活動として「ランチョンセミナー」を企画・開催し、ダイバーシティ推進の意識啓発活動をスタートしました。多くの参加者から応援の声をいただき続けてきましたが、現在は、コロナの影響で食事を伴うセミナーの開催がむずかしくなり、中断しています。

そこで、ダイバーシティ委員会は、組織における多様性（ダイバーシティ）の必要性を、学会の皆様と共有する場として、和文誌への掲載（連載）を企画しました。会員の皆様に、最新の取り組みや課題を提供することで、会員間の交流や人材育成につながり、学会の活性化につながることを期待しています。

「多様性」には様々なものがあります。多様な働き方、多様な価値観、多様な文化、多様な生き方、多様なアイデア、多様な性など。それらを理解し、活かし、高めあうことが、誰もが安心して働きやすく、学びやすい組織となり、そのことが組織の活性化につながると思います。

掲載する内容として以下のテーマを考えています。

1. ダイバーシティ経営の現状とメリット
2. 女性活躍促進のための取り組み（女性管理職比率向上、女子学生増加、女子学生支援など）
3. 性の多様性への理解と取り組み
4. 多様な人材（外国人、障がい者、退職者等）の雇用と活躍の現状
5. 多様な働き方（男性育児休業、テレワーク、長期休暇制度）の現状と取り組み
6. コロナ禍での遠隔測定、遠隔作業、遠隔機器の取り組み
7. ワークライフバランスに向けた取り組み（地域限定の管理職、夫婦で転勤、単身赴任の解消など）
8. 外国人から見た日本のダイバーシティ、日本人から見た外国のダイバーシティ
9. その他

1～2ページ以内で原稿を書いていただきたいと思います。写真や図も使ってください。

掲載は年3回程度を予定しています。執筆者から次の執筆者にバトンを渡す形を取りたいと思っていますので、執筆者は次の執筆者に原稿をご依頼くださり、次々とバトンがつながりますように願っています。

次のバトンは芦澤 直太郎 様（アシザワ・ファインテック株式会社 社長）にお渡しします。